

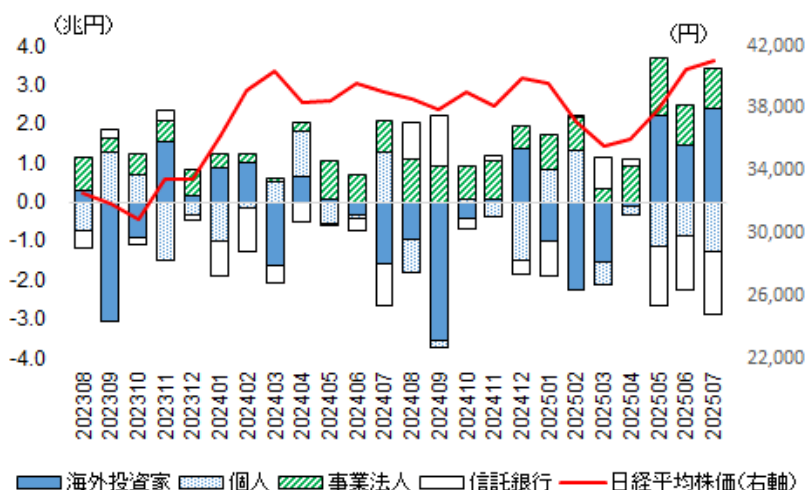
研究員
の眼投資部門別売買動向(25年7月)
～海外投資家は買い越し、個人は売り越し～

金融研究部 研究員 森下 千鶴

(03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

2025年7月の日経平均株価は、4カ月連続で上昇した。上旬は、日米関税交渉の不透明感や参議院議員選挙を控えた政治リスクが重荷となり、日経平均株価は6月末の水準をやや下回る3万9,000円台後半でのみみ合いが続いた。加えて、主要企業の4-6月期決算発表を前に投資家の様子見姿勢も強まった。中旬は、米ハイテク株高や円安進行が支えとなる一方、米欧の通商交渉の停滞などが上値を抑えた。下旬に入ると、日米が自動車を含む関税を15%に引き下げることで合意したことが好感され、日経平均株価は23日に終値ベースで4万1,000円を超え、24日には一時4万2,000円台を回復（終値は4万1,826円）した。その後も堅調に推移し、月末は4万1,069円で終えた。投資部門別では、海外投資家と事業法人が買い越し一方、信託銀行と個人は売り越した（図表1）。

図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



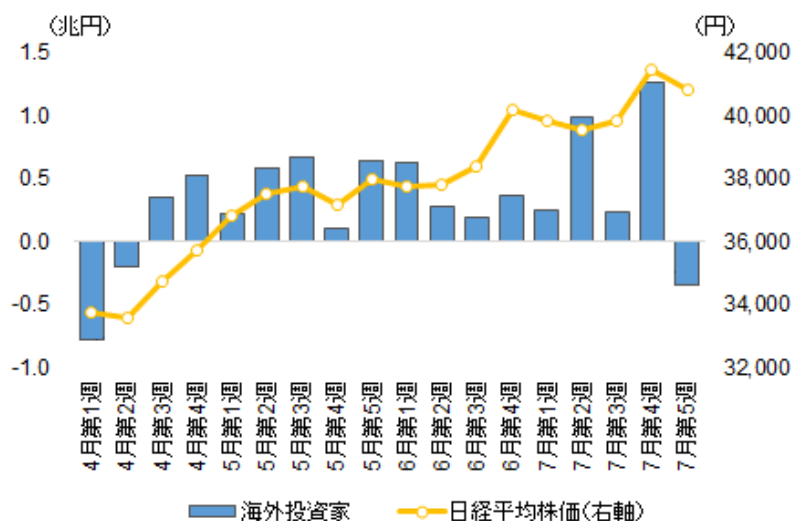
単位: 億円 (億円未満切り捨て)		海外投資家	個人	証券会社	投資信託	事業法人	生保・損保	都銀・地銀等	信託銀行	日経平均株価 (円)
月次	202505	22,218	-11,203	-386	131	14,766	-2,104	1,030	-15,512	37,965.10
	202506	14,664	-8,597	-318	1,888	10,146	-1,661	-562	-14,105	40,487.39
	202507	23,880	-12,576	-241	-7,920	10,665	-4,093	-1,571	-16,127	41,069.82

(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

2025 年 7 月（6 月 30 日～8 月 1 日）の投資部門別の売買動向をみると、海外投資家が現物と先物の合計で 2 兆 3,880 億円の買い越しと 7 月最大の買い越し部門であった。ただし、週単位では 4 月第 3 週から 15 週連続で買い越しが続いていたが、7 月第 5 週（7 月 28 日～8 月 1 日）は売り越しに転じた（図表 2）。前週には、日米が関税率を 25%から 15%に引き下げることで合意したことを好感して、日経平均株価は週間で 1,637 円上昇した。また、月末には日米の金融政策決定会合や米雇用統計の発表を控え、買い越しが続いていたなかで短期的な利益確定売りやリスク回避の動きが強まったと考えられる。

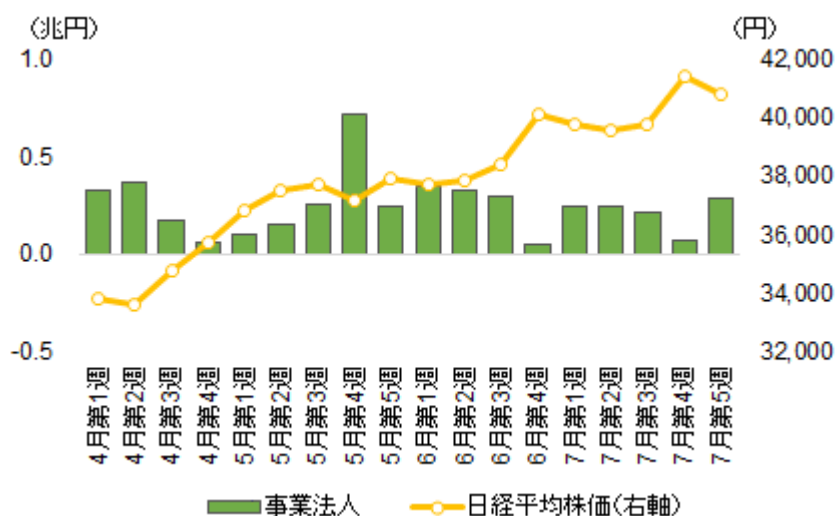
図表2 週次の買い越しは 15 週連続で一服



(注) 海外投資家の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

7 月は事業法人も現物と先物の合計で 1 兆 665 億円の買い越しとなった。事業法人による自社株買いは継続的に行われており、50 カ月連続の買い越しとなった（図表 3）。

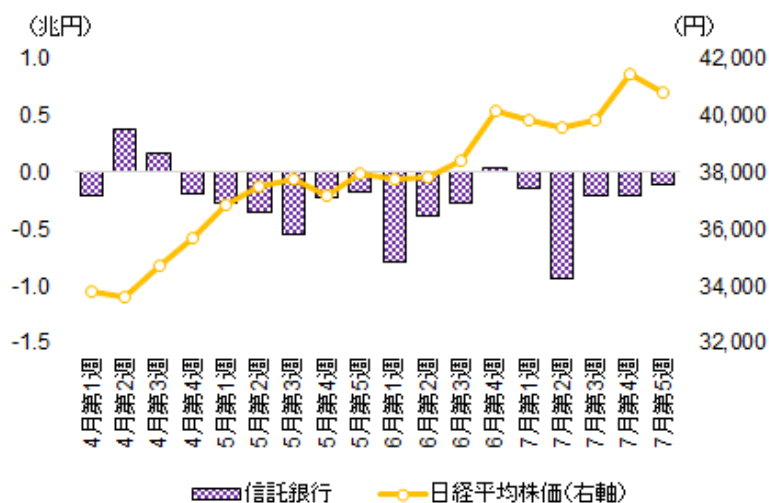
図表3 事業法人は 50 カ月連続買い越し



(注) 事業法人の現物と先物の合計、週次
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

一方、信託銀行は現物と先物の合計で1兆6,127億円の売り越しと、7月最大の売り越し部門であった。週単位では7月第1週から第5週まで全て売り越した（図表4）。

図表4 信託銀行は最大の売り越し部門

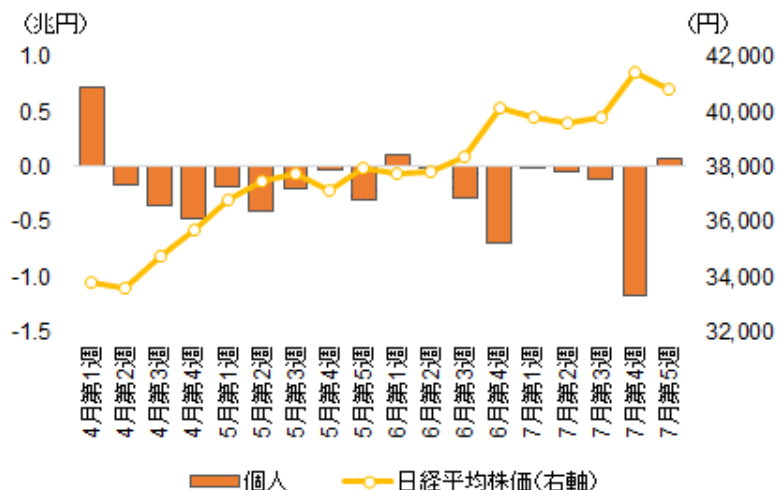


(注) 信託銀行の現物と先物の合計、週次

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

また、7月は個人も現物と先物の合計で1兆2,576億円売り越した。特に7月第4週（7月22日～25日）は1兆1,687億円と大幅に売り越した（図表5）。同週は、日経平均株価が4万円台を回復し、一時4万2,000円台まで上昇する場面も見られたことから、個人投資家の利益確定売りが強まったと見られる。一方、7月第5週（7月28日～8月1日）には日経平均株価が下落に転じたことを受け、小幅ながら買い越しに転じるなど株価の下落局面で買いに動く「逆張り姿勢」がうかがえた。

図表5 個人は売り越し



(注) 個人の現物と先物の合計、週次

(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

以上